◇アイランドシティ・未来フォーラムの提言の枠組みと論点整理による委員意見のまとめ
（H23.12.3）

～強みを活かした「未来像」の構想と基本的考え方～

Ⅰ．21 世紀の展望と福岡の将来を見据えたアイランドシティの「未来像」の構想
「論点１：福岡の将来を展望した上で、新都市の果たすべき役割と目指すべき未来像とは何か」

（委員からの主な意見）

① アイランドシティの都市機能を考える上で，博多湾，福岡市，九州，日本海沿岸，日本全体，そしてアジアから見たときにどういう機能が必要か，将来展望を踏まえて考えるべき。
② アイランドシティの特性や強みを踏まえたまちづくりが重要である。
③ アイランドシティを福岡の顔，モデル，ランドマークになるような場所にするべき。
④ みなとづくりエリアとまちづくりエリアの交流や調和を考えて欲しい。
⑤ 都市戦略上，財源をどう生み出していくかという観点でシナリオを描くことや，選択と集中の観点からプライオリティの位置づけをするべき。

Ⅱ．個性的な都市の魅力をかたちづくるテーマに基づくまちづくりの展開
「論点２：21 世紀を活き続ける創造都市のテーマと課題は何か」

（委員からの主な意見）

① アジアを見据えた産業集積や博多港の機能を活かした産業集積を図るべき。
② 研究機関，開発型の戦略産業など，知的産業の集積を図るべき。
③ こども病院を核とした健康・医療・福祉機能の集積を図るべき。
④ こども病院にはアジアをはじめ，外国からの患者や医療関係者等を受入れるべき。
⑤ まちづくりエリア全体を産業圏として捉えた実験的なプロジェクト，あるいはスマートシティづくりのためのショーケースや社会実験などを行うことが重要である。
⑥ 島形式となっていることのメリット（セキュリティが容易）・デメリット（交通渋滞等）がある。
⑦ アイランドシティのテーマ（キーワード）は，環境（エコ）・健康（医療・スポーツ）・文教・交流などで，文化的で洗練されたアジアのイメージである。

Ⅲ．物流・港湾機能の整備促進から複合機能の形成へと向けたプロジェクトの連鎖
「論点３：最新の港湾施設・物流施設を核としたみなとづくりエリアのテーマと課題は何か」

（委員からの主な意見）

① 博多港の特色や強みを整理し，アジア・日本・日本海側における戦略的港湾機能を強化するべき。
② 国際ＲＯＲＯ船の有効活用や国際コンテナターミナルの整備を急ぎ，博多港の各ふ頭の機能整理を行い，効率が良く競争力のある港湾機能整備を図るべき。
③ 青果市場を核として，魚市場や花市場などを集め，食をテーマにしたイベントやフードセンターなどのプロジェクトによる集客の仕組みをつくるべき。
④ 先進的なコンテナターミナルなど港の機能を教育の場として活用することにより，事業の理解促進を図るとともに，港湾機能の重要性の発信が大切である。

Ⅳ．住みたくなる都市のブランド化と居住環境の付加価値の創造
「論点４：まちのイメージとブランドをどのように構築していくか」

（委員からの主な意見）

① まちづくりエリアの居住環境としては，景観や治安が良く，子育てしやすい環境であり，特に照葉小中学校に代表されるように教育環境が素晴らしい。

② 文教地区を前面に出し，高校や大学，国際的な教育機関等の誘致を積極的に図るべき。

③ 魅力あるまちのイメージとしては，文化的に人が集う未来型エコタウンや自然と共生できる文化エコタウンという感じ。

④ 単身者や高齢者など、多様な人が集うことで、活気がありつづけるまちに成熟させるべき。

⑤ 住民の治安・防犯に対する意識が高く，交番等の警察施設の設置や警察との連携を求める声が多い。

⑥ 住環境では付加価値を高め，安全・安心や利便性が向上する施設の集積を図るべき。

⑦ アイランドシティのネガティブイメージを払拭し，住環境の素晴らしさなどを積極的に発信することによるブランドづくりが求められる。

⑧イメージやブランド向上のためのまちの名称の定着は，まちづくりのコンセプトやテーマに基づく魅力あるまちづくりとともにあるべき。

⑨ まちづくりエリアでは価格を下げる発想だけではなく，付加価値を高める工夫をするべき。

Ⅴ．都市成長を効果的にリードする公共投資

「論点５：まちづくりを進めるためにどのような公共投資・先行投資が必要か」

（委員からの主な意見）

① 住民が必要としている施設は，交通機関，商業施設（小規模スーパー等），医療機関（病院等）などである。

② 現状としてはバスのみで便数も十分ではないため，バスの増便や鉄軌道の導入を図るべき。

③ 現実的な交通アクセスの向上としては，当面，道路整備とバス路線の充実であり，そのために自動車専用道路（都市高速道路）の延伸を急ぐべき。

④ 都市交通と直結した循環型の交通網の整備が求められる。

⑤ まちづくりの具体的な計画を示し，公共施設や交通基盤整備などの公共投資を先行的に行うべき。

⑥ 従来型の見本市会場としてのコンベンションセンターではなく，学術・産業交流の拠点となるような，あるいは情報管理や文化的機能を持つ大規模コンベンションセンターが欲しい。

⑦ メディアやコンテンツなど，様々な情報を活用・発信する新しい形の中核施設が求められる。

⑧ 総合特区活用などアイランドシティをナショナルプロジェクトに仕立て上げる戦略がいる。

⑨ アイランドシティ整備事業については，埋立地から得られる税収も活用し，公共投資や特区の活用など国や県と連携するべき。

◎ 提案されている具体的な都市機能施設等

★文化（県立美術館）・環境・データ（メディア）センターを兼ねたコンベンションセンター
★大規模コンベンションセンター　★博多・アジア情報ゲートウェイセンター（仮称）
★フリーゾーンやワンストップサービス機能を備えたエンジニアリングパーク
★小規模スーパー（ドラッグストア）・レストラン（喫茶店）・病院・郵便局・スポーツ施設
★スポーツ医学・予防医学施設　★スポーツの拠点的な施設
★リハビリテーションなども含めた総合的な医療施設・宿泊施設　★ビルの霊園
★図書館・銀行ＡＴＭ・駐車場・防犯灯・監視カメラ　★災害時の緊急避難施設・消防署
★交番・警察官詰所・警察施設（機動隊・自動車警ら隊・交通機動隊・機動捜査隊）
★国際機関（医療福祉・観光交流・調停等）の誘致
★アジアや世界を意識した人的文化的交流の場としての国際教育機関の誘致
（例として秋田県の国際教養大学・大分県の立命館アジア太平洋大学等）
★学校（高校・大学）の誘致（例として旧九州芸工大・福岡女子大等）
★里山・ビオトープ・農園・古民家
★エコや環境を学べる文化施設　★野鳥公園の早期開園（児童会館・県立図書館の併設）
★桜並木・防風防潮林等の緑化　★中央公園の季節ごとの植栽　★お宮（香椎宮の浜宮など）
★高速道路の乗り入れ・鉄道の導入・バス営業所の誘致・バスの増便
★電気自動車，LRT，BRT 等の新交通システム　★海上バス・ボートエリア
★青果市場を核とした食の市場，マルシェ，インポートマート，グルメタウン，屋台タウン，福岡フードセンター
★食品加工，流通加工，部品加工といった付加価値を備えた物流倉庫の設置
★コンテナターミナルＤバースの早期整備

Ⅵ．民間開発を誘導する土地利用促進策の効果的な投入

「論点６：民間事業や民間開発を促進するためにどのような施策が必要か」

（委員からの主な意見）

① 物流やマーケティング機能を持ったエンジニアリングセンターを立地し，フリーゾーンとして規制緩和や税制優遇などを兼ね備えたエンジニアリングパークのような整備を行うべき。

② 立地促進のためのメリットやビジョン，エリアの優位性を示し，先行的な公共投資を行うべき。

③ 土地分譲だけでなく，事業用定期借地などにより土地の流動化を図るべき。

④ 立地交付金等の補助金の拡充や分割払いのようなインセンティブの充実を図るべき。

⑤ 規制緩和により海外からも含めてベンチャーや起業しやすい仕組みづくりによる企業誘致を行うべき。

⑥ 立地は価格の問題だけではなく，立地のメリットを高めるためのインセンティブや付加価値づくりが求められる。

⑦ 投資の回収は，都市全体で回収するといった発想，分譲価格だけでなく，税収で回収するといった発想でよい。

⑧ みなとづくりエリアは土地価格を下げる工夫が求められる。

⑨ まちづくりエリアにおける公募方法は，これまでの個別ブロックごとの分譲公募ではなく，より大きなエリアを対象に総合的な観点から一括して公募する方法がいいのではないか。

◎ 提案されている具体的な施策等

★事業用定期借地　★固定資産税の優遇　★税制・金融面での優遇　★規制緩和

★立地交付金，補助金の充実　★分割払い　★総合保税区の設定　★土地価格の低減

Ⅶ．公民学連携のまちづくり推進拠点の設置と組織的活動の強化

「論点７：様々なまちづくり活動と都市開発を如何に組織的にマネジメントするか」

（委員からの主な意見）

① イベントや地域活動，まちの多様性などをコーディネート・マネジメントしていくような組織や施設整備を行うべき。

② アイランドシティに地元が中心となった情報発信や学びの場としてのまちづくりの拠点施設の整備を行うべき。

③ 地域の自主的な活動によるまちづくりの推進が求められる。

◎ 提案されている具体的な都市機能施設等

★情報発信・まちづくり拠点施設（例として柏の葉アーバンデザインセンター）

★イベント型のソフトコンテンツによる地域活性化